

ボランティアステーションの活動記録 Vol. 2

東北学院大学災害ボランティアステーションは、震災後 3 月 29 日の開設以来、さまざまな支援活動に取り組んできた。

- 1 瓦礫撤去・汚泥除去（七郷、亘理、石巻、塩釜、多賀城など多数）ボランティア
- 2 翻訳、学習支援ボランティア
- 3 子ども遊び相手（読み聞かせ・サッカー教室など）ボランティア
- 4 情報ボランティア（河北新報社「ふらっと」Web 情報発信）
- 5 ブルガリア共和国大使の東松島市訪問、ミニコンサートの開催支援（5 月 25 日）
- 6 東日本大震災に対する大学間連携によるボランティア活動ミーティング
～模索からキックオフへ～（5 月 27 日）
- 7 泉キャンパス災害ボランティアステーション開設（6 月 6 日）

その他、支援物資・学生ボランティアの派遣など、学内に留まらず、在仙の大学との連携も進めている。活動の詳細については、ボランティアステーションホームページを。

<http://step-tg.jp/volunteer/?p=1445>

【トピック 1】 5 月 25 日

ブルガリア共和国大使、国民的歌手と共に来学 東松島市の中学校を慰問

2 年前の交流から、ブルガリア共和国大使一行が本学災害ボランティアステーションを激励に訪れた。これには青山学院大学の仲介もあり実現したもの。一行は理事長・学長との懇談の後、被災に会った学生 3 名とのミーティングを行った。

午後、トドロフ大使一行は被災地の慰問に出発。ボランティアステーションのコーディネートにより、津波被害で校舎が壊滅した東松島市の鳴瀬第二中学校生徒を音楽慰問するため、生徒たちが間借りしている鳴瀬第一中学校を訪れた。スタッフが手作りの横断幕、ブルガリア共和国や、国民的歌手ヴァリヤ・バルカンスカさんとバグパイプ奏者のペタル・ヤネフさんのプロフィールを掲載したプログラムを配布し、一中・二中の生徒約 400 名を前で約 50 分の予定で交流イベントが始まった。

ミニコンサートは、中学生代表による「さくら」のアカペラで大使一行を迎え、バルカ

ンスカさんの歌声、それに応える形で一中の生徒全員による合唱、続いて二中学生全員による合唱で幕を閉じた。予定を 30 分以上超過しての終了だったが、別れ際、大使一行、バルカンスカさん、ヤネフさんは握手攻めにあい、サインを請われるという盛況で、一行の被災地訪問は無事終了した。

【トピック 2】 5月27日

全国 10 大学の災害ボランティアスタッフが集結 大学間連携のキックオフミーティングを開催

東北学院大学災害ボランティアセンター設置より 2 ヶ月が経った。これまで被災地大学として各大学の支援受け入れ、ボランティア学生のコーディネートに奔走していたボラスも、今後の活動の長期化、今夏のボランティア学生の受け入れ、コーディネート活動を円滑に進めるため、全国の姉妹校・協力校を招き、「東日本大震災に対する大学間連携によるボランティア活動」のキックオフミーティングを開催した。

当日は、青山学院、明治学院、関西学院、立命館、中央、麗澤、桜美林、名古屋、中部、そして本学の全 10 大学が参集。冒頭、佐々木俊三東北学院大学災害ボランティアステーション代表の挨拶と全大学への提案がなされ、ボランティアステーション活動の継続的な支援の枠組み構築、被災地復興に向け今年特別な意義を持つであろう「仙台七夕」へのサポート、情報ボランティアネットワークの構築などを提言。被災地であり仙台からも遠隔地となる気仙沼市への重点的な支援活動への取り組みを提案し、満場一致で採択された。その後各大学の具体的な災害ボランティア活動の報告と今後の抱負などが披露された。東北学院大学の活動報告としては、瓦礫撤去・汚泥除去、読み聞かせや、海外からのメッセージの翻訳ボランティア、河北新報社の web サイト「ふらっと」で情報ボランティアスタッフとして参加している学生の報告が行われた。約 3 時間にも及ぶミーティングはここで一時閉会。その後フリートークの情報交換が続けられ、今後の大学間連携に向けさらに“きずな”を深めていた。

【トピックス 3】

高校生のボランティア活動 『Messenger 311』 私たちにできること… NHK でも報道

東北学院中・高がある小鶴新田のすぐ近くまで押し寄せた津波。その被災地を通学路にしていた高校生たちが、点在する避難所や自宅に避難している人たちの必要なものを聞き出し、ホームページ上で紹介、それを見た支援者がピンポイントで避難者に支援を送るという、物資のマッチング活動を実施している。その名を、災害ボランティアグループ

「Messenger311」。高等学校3年生で組織され、代表の末永伸太郎さんたち8名は自転車で瓦礫の中を走り回り、情報を集め、タイムリーな支援ができるようにと更新も随っている。この活動を聞きつけたメディアにも多数紹介され、5月にはNHK取材を受け、「高校生の被災地支援活動」として夕方の情報番組で全国放送された。

6月現在、周辺の被災地も落ち着きを取り戻し、高校生の活動も学業に専念するというところで今は活動が休眠状態だが、彼らの「自分たちができること」を自ら探し当て、それが地域の人々の支援になった一連の活動は大きな成果といえる。